

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874003805		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	姫路ケアセンターそよ風		
所在地	姫路市神田町4丁目15番地		
自己評価作成日	平成22年9月24日	評価結果市町村受理日	平成23年1月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomatationPublic.do?JCD=2874003805&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成22年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・併設する通所介護サービスの関係で、ボランティア来所時は参加させて頂き、生活に変化がある。 ・うめぼし体操(独自体操)を、毎朝行っている。 ・利用者と職員の信頼関係が厚く、笑顔が絶えない生活を送っておられる ・個人の生活スタイルに合せている ・月1回、家族様へ写真を添えて近況報告の手紙を出している

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員皆で作り上げたホーム独自の理念「優しい笑顔は介護の原点」をホームに掲げ、毎朝唱和し日々の実践に繋げている。開設以来5年目を迎え毎年受審している第三者評価の結果からでた課題を改善し、着実にケア及び運営に反映している。運営推進会議は利用者、家族、自治会長等を含む多様なメンバー構成で2ヶ月に一回定期的に開催され、改善課題について話し合い、地域の理解と支援に結びつくように努めている。ホームは、利用者一人ひとりを尊重したケアに取り組んでおり排泄支援については利用者が恥ずかしいと思うようなことは一切行わず、一人を除く全ての利用者は布パンツまたは紙パンツを使用し、自立に向けた支援に努めている。また、ホーム内では利用者が描いた季節の植物のスケッチや習字等展示し力の発揮支援に努めている。皆の表情は明るく穏やかで落ち着いた暮らしの様子が伺える。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に“姫路ケアセンターそよ風”の目標と独自の理念を掲げており、朝礼時に唱和している。	法人全体のそよ風憲章と姫路独自に「そよ風に来て良かったと思ってもらえる」ことを目標に掲げ管理者、職員共に毎朝唱和し、共有しあいケアに反映できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件上、工場が多く一般住宅がとても少ないが、散歩や花の水やり等の時には、積極的に声かけを行うように努めている。近くの店での買物は利用者の方と共に行き、理解を深めて頂けるように常に心掛けている。	2地区の自治会に加入し交流も多い。工場や倉庫が多い立地条件ではあるが地域のボランティアを数多く受け入れ、入居者と地域住民が交流できる場を持っている。また、小学生や中学生の学習の一環としての受け入れや音楽会の招待を受ける等子供達との交流も出来ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校のトライやるウィークの受け入れ、ボランティアの方との交流を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の割合で、会議が開催されている。地域包括支援センターの方も参加されて、利用者の状況について話合っている。	入居者、家族、地域住民の代表、社協支部長、地域包括支援センター職員等をメンバーに2ヶ月に一度開催している。議題の内容は状況報告、第三者評価についての報告を行い、出席者から多くの意見や提案をもらい実践につなごうとしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市から案内されたサービス向上の為の研修や勉強会に参加する以外にも電話等で問い合わせ等サービス向上に繋げている。問合せ先：市役所、消防局、保健所等	姫路市のグループホーム連絡会に参加し他事業所との連携や情報交換を行っている。介護保険課、消防署、保健所等必要に応じ連絡し連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏や不安がみられる時も傍らに付き添い、身体拘束のない介護を行っている。立地条件上、家族様へ説明し、理解を求め玄関等の施錠を一部行っている。	入居者の尊厳を第一に考え職員は日々のケアにあたっている。ただ、場所的に工場の近くでトラックや交通量が多く事故防止のため、家族の理解を得て施錠を行っている。職員は施錠しているから安心とか当たり前にならないようお互い意識しあうように心がけている。	施錠については常に職員間で問題視し、入居者本位の立場に立ったケアに期待したい。また、外部研修にも積極的に参加し意識をより高く持って欲しい。
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく、精神的な虐待にも細心に注意を払い、取り組んでいる。言語による拘束にも注意を払っている。	高齢者虐待については社内、外の研修に参加しセンター内での伝達研修を行っている。また、言葉使いに関しても職員同士で注意しあうように心がけている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について学ぶ機会がなく、よく理解出来てない。	入居者の中に成年後見制度を利用している方がおられ、必要な連携は行っている。職員が制度についての理解が不十分であるという気づきが伺える。	高齢者の権利擁護について研修の機会を持ち必要に応じた支援ができるよう知識を深めて欲しい。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、利用者と納得がいくまで、十分に説明を行い正確な情報を伝えている。	待機者が多いなか緊急性や意向を踏まえ、契約にいたる前から居宅支援事業所のケアマネジャーと連携し、職員が自宅訪問を行い入居者の不安軽減に努めている。また、契約時に家族の意向や不安点を聞き十分な説明を行った上で納得して入居できるようにしている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気兼ねなく、不満、希望、苦情、不安等が話せる関係を築き個別の声かけ、個別ケアを行う。	ホーム内に意見箱を設置したり、年に3回の家族会を設け家族の意見が出しやすく相談しやすい体制を整えている。家族の思いや意向を受け止め改善に繋げている。また、家族どうし共有できる機会と捉え、集いやすい行事を検討している。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議を各毎月一回行っている。なるべく出席できるようにシフトを考慮したり各人が一度は発言できるようにしている。	ケアについてはユニットごとに連絡ノートを作り意見を出しやすい状況とし、ユニット会議、全体会議を毎月開き発言しやすい雰囲気となっている。また、個別には面談を行い希望や意見が言いやすいようにしている。事例として職員の提案により入浴時間を夕方と決めていたのを時間を決めず自由に入れるようにし入居者の入浴しやすい環境となっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の特徴を把握してそれぞれの得意分野を生かした取り組みができるように配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に募っての外部研修機会が設けられているが、それ以外にも会議の時間内に内部研修が行われている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同行者との交流や勉強会に参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に向き合いながら、気持ちを受けとめることに努め、傾聴して関係性を築いている。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の話を聞き、受け止めながら関係を築く、本人との思いの違いも含めて理解しながら関係性を築く。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる限りの対応に努め、必要に応じて他のサービスの利用の実行も大切。安心、納得しながら、利用できるよう支援の工夫が大切。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし、喜怒哀楽を共にすることは利用者の安心と安定感を生み、個性や能力を發揮できる、時間をかけて関わっていくことが大切。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活を支援していく対等な関係を築き、より良い関係を築いていけるために支援が大切。職員の関わりにより利用者との距離を振り返る。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人や商店、利用者が社会と交流できるように、逢いにきてもらったり、出かけていく機会を作る。	入居しても近所の方が面会に来られたり、以前住んでいた神社に初詣に行ったり家族の意向等も聞きながら支援している。また、加入していた老人会の音楽会に職員が付き添う等個別の支援を行っている。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助け合い、支えあって暮らすことが大切。利用者が孤立せずに暮らしを楽しめるように支援する。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関係を密にし、希望や意向を把握した上で、他職員やご家族と随時検討し、対応している。	本人の思いを第一に考え、待つ介護や傾聴に重きをおいてケアにあたっている。高齢となり死を意識した発言があったときは写経を進め、落ち着かれたり、表現しにくい人には寄り添い、ありのままを受け入れ、思いを引き出せるように検討している。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者に合わせた対応を行い、一人ひとりの生活環境を受け止めることを大切にしている。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の希望を尊重し、本人のペースに配慮した生活が送れるように現状を把握する。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のユニット会議を基に、個別処遇についての話し合いや意見やアイデアを反映させた介護計画を立てている。	ユニット会議の中でケースカンファレンスを行い、出た意見をもとに短期目標を3ヶ月とした計画を立案している。各職員が1~2人を担当し、状況に応じて評価を行っている。変化のあるときは随時変更している。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録、業務連絡は、ノートに記入し、業務に入る前には、必ず、記録やノートを確認した上で、口頭で申し送りを受け、業務に入る。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況を把握し、外出の機会が少ない方には、買物に一緒に行くなど、個々に対応している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生のトライやるウィーク、小学生の交流会等受け入れて交流している。また、来所されるボランティアには参加している。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	指定の内科及び歯科の往診。内科以外の病状のある方は、家族の意向に即して、家族同伴、もしくは職員同伴でかかりつけの医療機関に通院する。	入居者や家族の希望のかかりつけ医を受診できるよう支援し、協力医や歯科は2週間に一度の往診を受け連携を図っている。他科受診は家族または職員が付き添うようにしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、状況報告して指示を仰ぐ。勤務時間外に異変が生じた場合は、随時連絡を取り、指示を仰ぐ。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、主治医より紹介状が発行される。介護記録や、受診記録を以って措置の一助になるように配慮する。	入院の場合契約では一ヶ月以上になると退去となっているが状況や家族の意向を考慮し、医師と連携を図りホームで対応するような支援も行っている。また、入院時はホームでの様子を報告したり情報提供を行い、退院時は病院よりの情報提供を受け連携を図る	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合いの上、家族が求めるならば食事、水分摂取が可能な限り、介護していくが、摂取困難になった場合には、しかるべき医療機関へ。	ターミナル期の受け入れに関し、様式を整備し、主治医の協力のもと支援したケースもある。家族の意向に従い、医療機関へつなげることが多い。	重度化や終末期については事業所としての方針を明確にし、早い段階で家族との話し合いの場を持ち、職員間での研修等を充実させ、受け入れ態勢の整備を図ることが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事例と講ずる措置を事務所内に貼付。毎朝礼時、看護師より種々の措置を訓示。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署とタイアップしての現実的な避難訓練。	消防署との連絡体制を整え、夜間想定も含め、入居者も交えた避難訓練等が年に二回実施されている。また、水や缶詰、アルファ米等の備蓄も行っている。	運営推進会議において隣接の会社との連携の提案を受け、準備中である。また、地域の消防団の協力を要請することも望まれる。

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は礼儀をわきまえ、言動に気をつけながら利用者一人ひとりを大切に対応するように心がける。	日々の生活の中で一人ひとりを大切に思い、職員間で自分がされて嫌なことは決して行わないようにし、本人の気持ちを大切にケアにあたっている。また、個人情報の保護に気をつけ記録物の保管も適切に行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が安心して話せる雰囲気作りに努め、本人の希望や意志を尊重する。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の希望を尊重し、利用者個々の生活ペースを優先し、無理のないペースに配慮した生活を送れるように支援する。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマ、カット、毛染め等は利用者の希望に添って行っている。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員との声かけにより、盛り付けや果物の皮剥き等を一緒に行っている(2~3名対応)。下膳は利用者様に協力してもらっている。	献立は決められている物を基本にし、行事、希望を考慮し変更したり、手作りおやつを楽しめるようにしている。3食手作りで準備や後片付けも含めそれぞれできることを手伝ってもらっている。食事が終わってもすぐに下膳せず、皆が食べ終わるまでゆっくり待つように心がけている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックと水分量の確保は、一日を通じて実施している。夜間の水分摂取も個々に対応。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人でできない方への声かけを行い、必要に応じ一部介助も行う。また、義歯は夕食後預かり洗浄している。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄パターンをつかみ、声かけ誘導を行っている。	体調を崩された方を除いてほとんどの方が布パンツを使用し排泄の自立に向けての支援がなされている。オムツをはずすケアを目指し、排泄チェック表を用い声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、適度な運動を心がけ、便秘予防に努めているが、無理な場合は、下剤の使用等も主治医の指示により取り入れている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別対応の入浴が行われている。浴槽が二つあり、その方にあった方へ入って頂いている。	一人ひとりきれいなお湯で気持ちよく入浴できるよう毎回お湯をはりかえ季節感が味わえるようゆず湯や菖蒲湯が楽しめるよう配慮されている。職員の意見により入浴時間に幅を持たせ好きなときに入れるような支援がなされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングの椅子等好きな場所で過ごせるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については処方箋を確認し、分からないことがあれば、主治医や薬剤師へ相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除や洗濯たたみ、食事の下ごしらえと、個人の力を活かした役割の働きかけを行っている。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調を把握し、月一回は外出するよう心掛けている。買物の付添い等も、また、季節を感じて頂けるよう花見や秋桜鑑賞を行っている。	外出は計画にあげ初詣や花見、外食等季節の行事も考慮しながら月に一度は楽しめるようにしている。今夏は暑さが厳しく日々の外出は控えていたが、行ける時に近所の散歩や買い物に行っている。行けない時はベランダに出て外の空気を吸うようにしている。	日々の暮らしの中で散歩や買い物など外出の機会を多く持ち、自然や地域の人々とのふれあいを大切に支援に期待される。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自宅にかけたいと訴えがあればかけたり、かかってきた場合は取り次いでいる。年賀状、暑中見舞いも必ず出している。毎月、家族様に手紙を出し、書ける方は自筆の手紙を書き送っている。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は全利用者にゆったりと過ごして頂けるよう努めている。ベランダや季節の花や野菜などを植え季節感を取り入れている。	皆が集まる共用空間は落ち着いた雰囲気です。季節感が出るような作品を飾ったりしている。また、温湿度にも気をつけ居室共に空調や換気の管理をしている。日中入居者は居室や居間等思いおもしろい場所で自由に過ごしている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間居室内は使い慣れたものを置いたり、その方らしい居室作りを自由にして頂いている。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れたものを置いたり、その方らしい居室作りを自由にして頂いている。	居室はベッドやロッカー、机等備え付けのもの意外は以前使用していたものをそれぞれ持ち込み落着いて暮らせるよう配慮されている。家族の写真を飾ったり、仏壇を置かれている方もおられる。仏壇にはご飯やお茶を供えるような支援もされている。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			